

発刊にあたって

自然環境保全センターは、森林を中心とした自然環境の保全や再生を推進するため、研究、普及、行政部門を備えた中核組織として、平成 12 年度に創設されました。森林環境に関わる県民や行政の期待・要望は、全国レベルの問題から地域に特化した問題など様々ですが、自然環境保全センターでは研究機関や大学及び行政機関等多くの関係者のご支援、ご協力を得ながら着実に対応してまいりました。

神奈川県では、幅広い県民の参加により、丹沢大山における現状を把握するとともに、様々な課題の解決を図るため、平成 16 年度から、丹沢大山総合調査を行っておりますが、当センターは、丹沢大山総合調査実行委員会の厚木事務局として、調査の企画立案の段階から、各種調査や情報の収集・整理・分析、取りまとめ、さらにはセミナー開催等の役割を担ってまいりました。

また、景観や森林生態系を保全するための自然公園の管理や施設整備、野生生物の保護管理、あるいは森林所有者としての県有林の整備や管理など神奈川県の自然環境を保全する上で欠くことの出来ない事業等も進めてまいりました。

「自然環境保全センター報告」は、このような業務から得られた研究成果、自然情報及び知見を、県民及び他の行政機関等に提供するとともに、記録・保存することを目的としています。

自然環境保全センター報告第 3 号では、丹沢大山総合調査に関わる報告として、「丹沢山地におけるブナハバチの加害と影響に関するブナ年輪幅変動の解析」、「2004 年度神奈川県ニホンジカ (*Cervus nippon*) 保護管理事業におけるニホンジカ個体群調査報告」を、及び、石川芳治先生から「丹沢堂平地区における土壌侵食と緊急対策」の特別寄稿をいただいております。更に、総合調査以外の報告として、「きのこ資源の利用技術の研究開発」、「県民手づくりの森事業」及び「丹沢山地札掛地区におけるニホンジカ (*Cervus nippon*) 生息密度調査結果」なども併せて紹介しております。

当センターとしては、今後とも森林環境の保全にかかわる業務や研究内容の充実に努めるとともに、成果や実績等につきましては、本報告書やホームページなどで迅速に紹介してまいりますので、ご意見をいただくとともに、業務等の参考として活用していただければ幸いです。

平成 18 年 3 月

神奈川県自然環境保全センター所長 蓮 場 良 之